韓国 3	Hansalim生活消費者協同組合連合会

Hansalim、生命と協力の力で気候災害を克服する

キーワード	農業、食糧／食品、協同組合、生命、共生
活動の目的・目標	1. 命を救う農業と食糧システムを通して、気候危機に対応する。 2. 現在の経済システムと政策を、生命と協力のエコノミーへと転換させることに積極的に参加し、直接の関与を通じて学習する。 3. 気候関連の災害に対応するためのシステムと実践を確立させる。

活動内容

Ⅰ. 気候危機とHansalim協同組合

一般の人々が気候危機を経験するケースで最も多いのは、「飢餓」を通してであると言われている。気候災害は、食糧生産に大きな影響を及ぼし、食糧危機や気候インフレの原因となる。食糧生産と農業は、生態系の変化や気候危機によって最も影響を受ける産業であるだけでなく、こうした問題をもたらす主な要因のひとつでもある。同時に、解決のために力を注ぐべき重要分野でもあるはずだ。Hansalimは、食糧および農業、気候危機の間の関係性を特に重んじる協同組合であり、私たちの日常生活の中で解決策を探す努力を重ねている。

1986年に小さな米屋として始まったHansalimは、現在では94万人近い組合員を擁する生活消費者協同組合の連合会へと成長を遂げた。2024年現在、全国で30の地域協同組合と240の店舗を運営し、オンラインによる商品の配送も行っている。Hansalimは、その協同有機農業運動を通して、気候災害を原因とする農業および食糧の危機に対応することを目指している。この運動では、人間の観点からは、健康的で安全な食品を生産するための基盤を作ることを目指している。また、生物学的な観点からは、健全な土壌と豊かな生物多様性の回復を目指す。

Ⅱ. Hansalimの気候危機教育

Hansalimは、年間を通して組合員や参加者を対象に、気候変動に関する多様な教育およびコースを様々なテーマやアプローチで提供している。気候危機と農業、食糧の関連性に焦点を当てたいくつかのシリーズのコースには、「気候危機と持続可能な食糧システム」、「気候危機の時代の私たちの食卓」、「気候活動家のための研修プログラム」などが含まれる。これらは2024年の実施のために計画されたものだ。各プログラムは4から7のセッションで構成され、ほとんどのコースはオンラインとオフラインの両方で実施される。各セッションには平均で100人を超える組合員が参加する。

（左）【フードアカデミー】「気候危機と持続可能な食糧システム」ウェブポスター（2024年）
（中）【フードアカデミー】「気候危機の時代の私たちの食卓」ウェブポスター（2024年）
（右）「2024年Hansalim気候活動家のための研修プログラム」ウェブポスター（2024年）

韓国 3	Hansalim生活消費者協同組合連合会

活動内容

「オープンラーニングセンター」のプログラムは毎月開催され、農業や協同組合、食糧転換、ケアといったテーマとともに、気候変動や資源リサイクル、エネルギー転換などの問題も扱う。オープンラーニングセンターは2～3シリーズのコースで構成され、主にオンラインで開催される。セッションあたりの平均参加者数はおよそ150人から200人。

（左）【オープンラーニングセンター X 気候スクール】
「福島原発災害から13年：私たちの現在地は？」ウェブポスター（2024年）
（中）【オープンラーニングセンター X 資源リサイクル】
「なぜガラスびんの再利用に法制度改革が必要なのか？」ウェブポスター（2024年）
（右）【オープンラーニングセンター X 気候スクール】
「市民が共に再生可能エネルギーを生むことは可能か？」ウェブポスター（2023年）

講義形式のコースでは参加者がやや受け身な姿勢になることがあるため、キャンペーンやフォーラムも頻繁に開催され、組合員の積極的な参加を促している。連合会は、「Hansalimにおける再生可能エネルギー導入活性化フォーラム」（2024年）などの大規模なフォーラムやキャンペーンを準備する。一方で、全国に30ある地域協同組合では、地域コミュニティのニーズに合わせた独自の活動を運営している。これには、環境委員会、環境ブッククラブ、エコロジーに興味がある者が集まる小グループなどのイニシアチブが含まれる。

食卓で気候についての対話を始めよう」というコンセプトのもと、「気候に関する食卓運動」 が発足した。テーマに基づく読み物やカードニュースの作成、YouTubeの動画、ワークショップ、写真チャレンジ、資金集め、寄付など、様々なプログラムが実施された。チャレンジだけで参加者は8,051人にのぼり、このチャレンジで集まった資金と追加予算による寄付金は、グリーンアンブレラ子ども支援財団に寄付された。こうした基金は、釜山にある子ども食堂で行われる食材・栄養教育に使われた。

【気候に関する食卓運動コミュニティのカードニュース（2022年）／一部】

活動内容

III. 気候危機対応計画、システム、実践

教育およびコース、キャンペーンが基礎を形成するのはもちろんであるが、気候危機への対応の中でも日常生活や文化に密接につながっているものについては、システムや生産・消費のパターンを変えることが求められる。この変革プロセスに参加することによって、Hansalim組合員の学習も促進される。さらに、この参加型学習には、彼らの生活を変革する力がある。

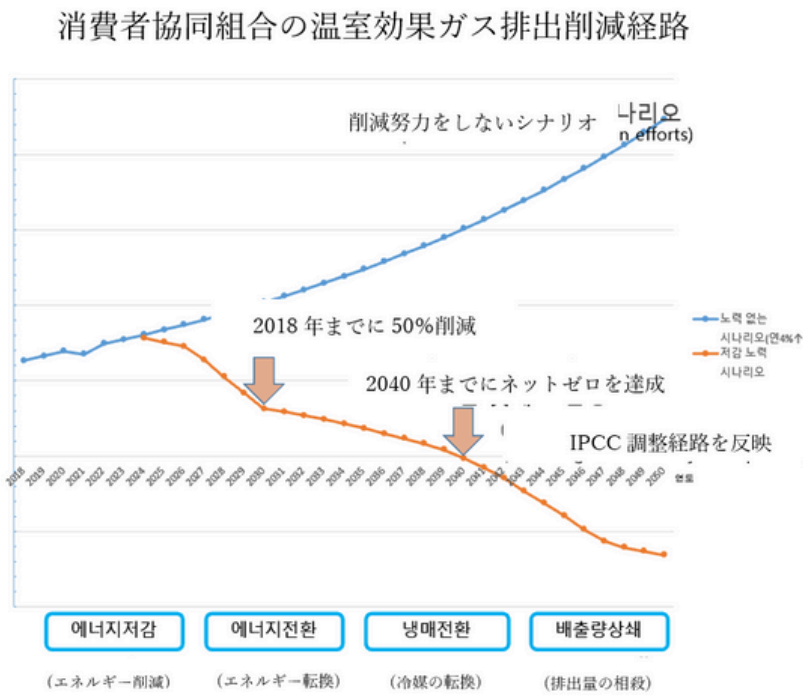
2019年、気候変動について韓国で初めての大規模抗議行動が行われた。抗議行動に参加したHansalim組合員の多くが、Hansalimがこれまで様々な方法で気候変動に取り組んできたものの、それらは体系的な計画に欠ける分散した活動だったことに気付いた。その結果、2020年、Hansalim協同組合連合会の理事会は、ネットゼロの目標を宣言するに至った。続いて2021年には、気候危機対応チームが創設された。2022年、協同組合部門からの温室効果ガスの排出を追跡するインベントリシステムが開発され、客観性確保のために第三者による検証が行われた。2023年には、完全実施に向けた詳細計画が作成された。これには、再生可能エネルギーへの移行、エネルギー使用量の削減、低炭素冷媒の導入開始といった行動が含まれている。

Hansalimは、資源リサイクルを実践することによっても、気候危機に取り組んでいる。初期のころより、協同組合は供給ボックスや保冷剤を再利用し、牛乳パックや殺菌パック、ガラスびん、豆腐容器を回収ののちに再利用／リサイクルしている。ガラスびんについては、組合員がびんを洗浄して店に返却することによって、33%を超える回収率を達成している。毎年春の衣替えの時期には「衣服再生」キャンペーンを実施して、パキスタンの子どもたちの教育のための資金を集めている。

資源リサイクルの取り組みが認められ、2023年9月、Hansalimは政府環境部から表彰された。使い捨て品の削減、包装廃棄物の抑制、リサイクルの推進などの取り組みを通して環境保全に貢献したことが評価されてのことだった。Hansalimは、環境に配慮した包装に速やかに移行したいと考えているが、協同組合の生産拠点の多くは小規模であるため、変化のペースは組合員が望むよりも遅い。そのため、Hansalimは、他の協同組合や企業と協力して、回収プロセスや洗浄施設、環境に配慮した包装の生産施設を共有している。これらの団体は連帯して、資源リサイクルを支援するシステムの確立を目指している。

気候正義のデモ行進への参加（2023年）

活動内容



【Hansalim 2050年ネットゼロに向けたシナリオ（2023年）】

IV. 気候災害に直面する生産者と消費者

気候災害がますます激化するにつれ、作物被害が拡大し、農業生産拠点には現在も混乱が続いている。これに対応するため、Hansalimは「生産安定基金」を運営し、気候関連の被災生産者を支援している。この基金は、台風やモンスーン、異常気象などの自然事象によって困難に直面するHansalimの生産者たちを支援するために創設されたものだ。地域の協同組合は総売上の0.1%を基金に拠出し、Hansalimの生産者連合会も同じ額を拠出する。災害によって生産者の収入が平均の50%を割った場合、この基金が差額を補填して、収入が少なくとも典型的な額の70%に達するように保証する。

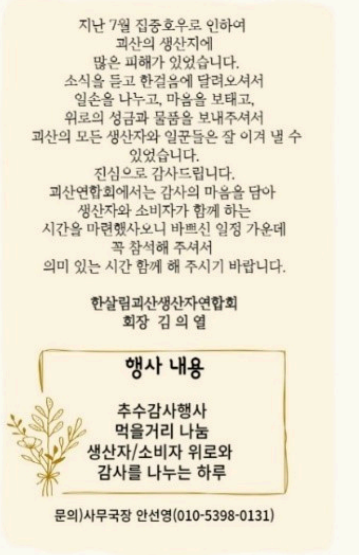
生産者のための最低限のセーフティネットが確立したとはいえ、気候災害の頻度と激しさが増しているため、基金が枯渇しようとしており、Hansalimは新たな手段を考えることを余儀なくされている。

2023年の豪雨は特に厳しい被害をもたらし、Hansalimは緊急募金キャンペーンを開始した。Hansalimの100人を超える組合員とスタッフが、災害復旧のために、被害を受けた生産地域を訪れた。およそ2億2000万ウォンを超える募金が集まり、100軒を超える農家に分配された。農家の人々は自分たちが育てた農作物が水没した光景に衝撃を受けていたが、復旧作業の後には、「Hansalimコミュニティからの支援のおかげで、再度立ち上がる力を得た」と述べて感謝の意を表した。その結果として、彼らは連帯を讃えて「感謝デー」を企画実施した。このイベントでは、Hansalimの生産者と消費者、スタッフが共に食事し、共に笑い、互いの絆を深めた。

このプロセスに携わった組合員は、気候災害と農業の関連性と緊急に気候変動対策を取る必要性を深く感じ、知ることになった。

韓国 3	Hansalim生活消費者協同組合連合会

活動内容



（左）「豪雨被災生産者のための緊急募金」ウェブポスター（2023年）
（中・右）「豪雨被害からの復旧に対する感謝デー」への招待状（2023年）

Ⅴ. 結論：死の文明から生の文明へ

環境教育は、様々な分野で様々な方法を使って行うことができる。これには、現実世界の経済や文化、日常生活への参加を通した学習、特に気候危機に対応する実践を通した学習も含まれる。Hansalimの環境教育は気候災害への備えを目的としているが、これを始めるのに使うのは教育プログラムだけではない。食糧と生命を大切にし、これらの世話をする日常活動や経済活動からでも、この教育を始めることができる。この実践の形を表現すると、「気候危機を悪化させる現在の経済システムから、協力と生命を基盤とするシステムへの転換」となる。

40年近くにわたって、Hansalimの生産と消費に対する代替アプローチの基礎が根差してきたのは、生命を中心とする世界観である。この世界観は、「茶碗一杯のご飯の世界」という比喩で表現される。茶碗一杯のご飯を楽しむには、昆虫や、土の中の虫、農家など、生態系の中にいる無数の生物が共生して働き、協力しあわなければならない。この世界観は、「食料を育てる」、「農業を育てる」、「生命を育てる」、「コミュニティを育てる」といったスローガンで具体化されている。そして、生命を絶ち阻害する文明から、生命を育て維持し、すべてが調和して共生できる文明への転換を願う気持ちが込められている。

活動の特徴

1．Hansalim生活消費者協同組合は、組合員向けに、気候危機教育の様々なプログラムやキャンペーン、フォーラムを実施している。
2．Hansalim生活消費者協同組合は、ネットゼロに向けたシナリオを策定し、インベントリレポートを作成することで、気候危機に対応してきた。また、再生可能エネルギー生成と資源循環を行うことで、このシナリオを実行している。
3．協同組合は、気候関連災害に備える農業基金の運営など、復旧システムも確立している。

団体・組織情報

【団体・組織名】Hansalim生活消費者協同組合連合会
【設立年】 1986年
【所在地】 15, Bongeunsa-ro 81-gil, Gangnam-gu, Seoul, Korea
【URL】 http://www.hansalim.or.kr/

担当者情報

【担当者名】Cho Miseong
【所属】Mosim＆Sallim研究所
【E-mail】mosim@hansalim.or.kr